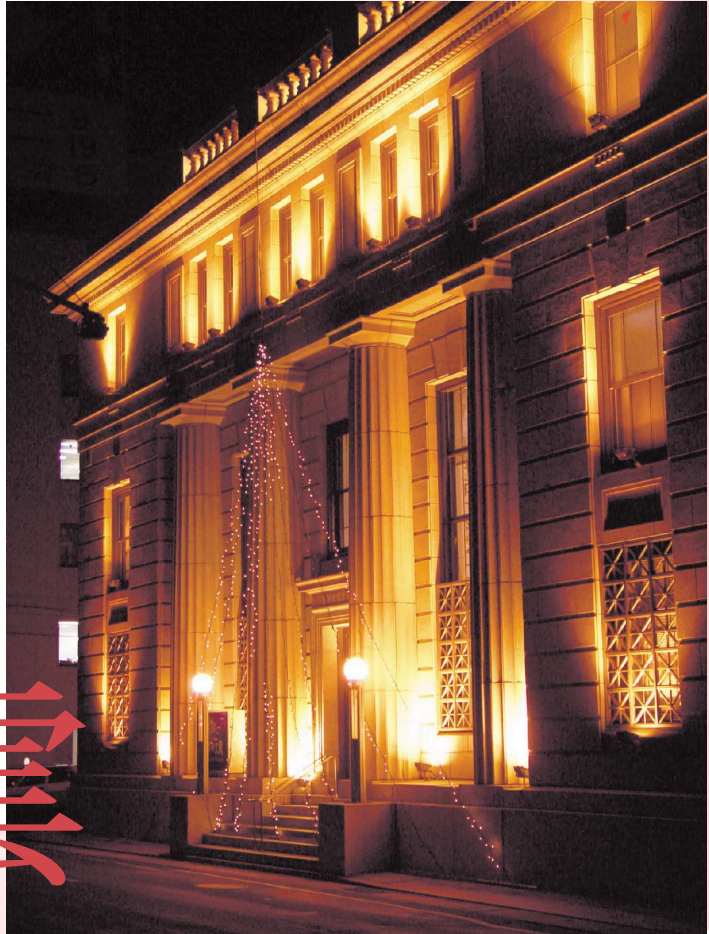


淞雲

第3号



(カラコロ工房／旧日本銀行松江支店)

- 2 ● これからの大学附属図書館 附属図書館長 高安克己
- 4 ● 附属図書館医学分館長に就任して 医学分館長 吉村安郎
- 5 ● 外国雑誌の電子ジャーナルへの移行とデータベース

しまだい資料探訪（1）

- 10 ● 『雲陽秘事記』 田中則雄
- 12 ● 『寛永出雲国絵図』のこと 池橋達雄

- 14 ● Library Column 【リンク】
- 16 ● キャンパスから
- 18 ● 大学図書館職員長期研修 福山栄作

- 19 ● 職員紹介
- 20 ● 図書館からのお知らせ

これからの大学附属図書館

附属図書館長 高安 克己

大学法人化と附属図書館

今年4月に国立大学が法人化してから半年が過ぎました。大学は競争的環境のもとで個性豊かな教育・研究活動が求められ、その結果は大学を取り巻く社会の中で厳しく評価されることになりました。しかし、大学の機能そのものが大きく変わってしまった、ということではないと私は思っています。

私は大学の基本的な機能を表現するために、ことある度に「人づくり、知恵づくり、夢づくり」というキャッチコピーを使っています。言うまでもなく「人づくり」は教育であり、「知恵づくり」は研究です。教育によって学生は付加価値をつけ世に出ていきます。また、既存の知識が研究によって無限の可能性を秘めた知恵となって社会に発信されていきます。人をつくる人、つくられる人、そして知恵をつくる人、そういう人たちが集うところが大学であり、大学はそれぞれの夢が育まれていく場でもあります。そして、大学から発信された「特上の人材」と「とっておきの知恵」は、社会の発展に寄与し、人々の夢を実現させていくことになります。大学は本来こうした機能を持った機関であり、それは法人化しても少しも変わるものではありません。むしろ、今まで以上にこのことを深く認識し、どのようにしたら他大学とはひと味違ったかたちで、本来の機能を効果的に発揮することができるか、ということを考えるべきだと思います。

大学附属図書館は、大学における「人づくり」と「知恵づくり」に必要な知識や情報を集め、蓄え、それらを提供するという重要な役割を担ってきました。法人化した今でも、この役割や機能は変わりありません。それどころか、大学が求められる諸活動にいかに関書館が機敏に対応できるか、すなわち、大学における活動の基礎となる知的情報を、いかに早く、的確に、必



要とする人たちのもとに届けることができるか、ということが以前にも増して強く求められているのです。その意味で、図書館の電子化は必然的な方向だったのかもしれない。

電子化が進む大学附属図書館

いくつかの分野では、専門雑誌が印刷・発行されて手元に届くのを待つよりも、インターネットを介して、編集後直ちに電子化された記事を読む方が、研究を進める上ではるかに効果的だと言われています。本年7月に開催された国立大学図書館協会総会での資料によると、自然科学・医学系雑誌の82%、人文社会科学系雑誌の72%がオンラインで入手可能であり、全国の国立大学図書館で所蔵されている電子ジャーナルのタイトル数は、平均で4300に達しているということです。ちなみに来年度島根大学では、約7000タイトルが研究室のパソコンから自由に読めるようになります。

電子ジャーナル化は今後も進んでいくと思いますが、これにかかる費用もかなり莫大なものになっています。電子ジャーナルの価格高騰は出版社の寡占状態に因るところが大きく、全国の大学図書館では、コンソーシアムをつくって共同でこれに対応しています。また、法人化後、研究室予算が減少して、従来から購読していた雑誌を取りやめる、という事態も頻発しています。中止した雑誌の中には、電子ジャーナルのタイトルには含まれないものが数多くあります。図書館ではこれに対応するため、雑誌データベースを一層充実させることにしており、来年からはほぼ全ての分野について、主要な雑誌に掲載された論文ならば、要旨まで閲覧できるようになります。さらにこれを手がかりに、世界中に張り巡らされた図書館ネットワークを使って、本文のコピーを迅速に入手できるようにします。

電子化はジャーナルに限ったことではありま

せん。世の中ではすでに「古典」を中心に多くの文学書が電子化され、インターネットで無料で入手できる状態になっています（例えば「青空図書館」<http://www.aozora.gr.jp/>）。多くの大学図書館でも、所蔵する古典や貴重図書を中心に電子化が進められています。本学では考古遺跡や小泉八雲関連資料の電子化が進められ、来年度からは医学分館所蔵の「大森文庫」の電子化に取りかかる予定です。「大森文庫」は、江戸後期に世界で初めて全身麻酔手術に成功した華岡青洲と、その医術について記述された非常に貴重な資料です。また、「淞雲」No.1 に紹介された「出雲国風土記抄」のように、本学図書館所蔵の資料が、他の研究機関によって電子化される場合もあります。

電子化された資料は、インターネットを通じて誰でも、どこからでも閲覧することができます。情報は電子化されることでそれ自体に付加価値がつきますが、さらにそれを利用する人にとっても、知識を知恵に変える重要なヒントを迅速に提供することになります。

ハイブリッドライブラリーと 情報リテラシー

電子化が、大学図書館の当然進むべき方向であることは確かです。すでにいくつかの国立大学法人では、情報センター等と統合して、従来型の図書館から脱皮しようとするところもできています。財政的にみてもその方がメリットがあるように見えます。しかし、統合しても図書館の機能が本質的に変わるわけではありません。変わるのは情報媒体（メディア）が冊子体から電子体になることと、それに伴う情報伝達手段が電子化されることです。

図書館の長い歴史の中で、このようなことはこれまでに何度もありました。最古の図書館とされるメソポタミアのヌファール神殿では、情報媒体は楔型文字が彫り込まれた「粘土板」でしたが、有名なエジプトのアレクサンドリア図書館では、パピルスの「巻物」になりました。

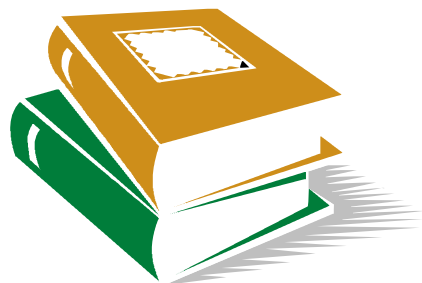
中国では2世紀初頭に、現在の製紙法が世界で初めて発明されましたが、書物は敦煌文書で知られるようにやはり「巻物」でした。ヨーロッパでは4世紀頃に、動物の皮を薄くめしてつくった羊皮紙を束ねて、現在の冊子体の「本」がつくられましたが、そこに記録された情報の伝達手段となると、洋の東西を問わず、

ひたすらそれを書き写す方法しかありませんでした。この状態は中国で発明された「紙」と、15世紀の半ばにグーテンベルグが発明した活版印刷が会うまで続きますが、本から個人への情報移転では、コピー機やコンピュータが身近になるつい最近まで、内容をノートに書き写していたわけです。

こうしてみると、メディアが電子化され、その情報伝達手段も電子化されてきたことは、図書館の歴史にとってそれほど不思議なことではなく、ただ、あまりにも急速に進んだために、多くの人にとって一種のとまどいが感じられる、ということだと思えます。この流れに早く慣れることが肝要であり、そのためにも情報リテラシーは重要になってくると思われます。ただ、いくら電子化されても、冊子体の書籍が図書館から消えて無くなるわけではありません。冊子体も、情報の保存性では電子とは違った意味で有効ですし、アナログ的な思考のメディアとしては不可欠なものとして、厳然と生き残ると思われます。これは、テレビやインターネットが発達しても、ラジオや新聞が廃れないのと同じことです。

最近出版された『図書館に訊け!』（ちくま新書）の中で、著者の井上真琴氏も「印刷冊子体、電子情報、インターネット情報などが併存して存在し、既に図書館もハイブリッドライブラリーとなった」と述べています。ハイブリッドライブラリーには、ハイブリッドな利用技術が必要です。多様なメディアと情報伝達手段を使いこなし、大学附属図書館の機能を十分に活用しつつ、「人づくり、知恵づくり、夢づくり」を教職員と学生が一丸となって展開し、個性的で活力ある島根大学を創造していきたいものです。

（たかやす かつみ）



附属図書館医学分館長に 就任して

医学分館長 吉村 安郎
(医学部歯科口腔外科学講座教授)



平成 16 年 4 月 1 日付けで、島根大学附属図書館医学分館長に就任いたしました。平成 16 年 3 月末日まで医学分館長で、現在副学長をされている山根洋右教授より、ボリュームたっぷりの図書館運営委員会の議事録を引き継ぎながら、今後の医学分館の管理・運営の大変さを十二分に想像致しました。

年度はじめは例年のことながら会議が多く、特に国立大学法人となって以後、図書館関連予算は相当削減されるとのことで（本稿を書いている時点では、まだ平成 16 年度の予算についての資料を得ておりません）、島根大学、各学部が均等にその負の部分を担当することの大切さを確認し合って、可能な限り経費を低くするにはどうするか議論を、全体会議（附属図書館運営委員会）で討論したものであったと判断しています。

附属図書館運営委員会で得られた最重要決定事項は下記の通りです。

1. 平成 17 年、18 年の 2 カ年は、学術雑誌は冊子体でなく、電子ジャーナルとすること。
2. 平成 17 年度以後継続する電子ジャーナルとして、全学的見地、また分野別の雑誌のカバー状況から、
 - ① Elsevier Science 社：Science Direct
 - ② Springer 社：SpringerLink
 - ③ John Wiley & Sons 社：Inter-Science
 - ④ Blackwell Publishing 社：Synergy
 - ⑤ ProQuest I&L 社：ProQuest ML, ARL
 - ⑥ Nature Group：Nature & Research
 - ⑦ MacMillan 社：Science
 - ⑧ NASUSA 社：ProNAS
 - ⑨ Mellon Found 社：JSTOR
 - ⑩ Kluwer 社：Kluwer Online
 - ⑪ Cambridge UP 社：Cambridge Online
 - ⑫ Oxford UP 社：Oxford Online

の大手 12 出版社系列電子ジャーナルを共通経費化の対象とする。

因みにこれにより総タイトル数は、5,829 誌となります。なお価格の面から、冊子体購入は共通経費に含めず、電子ジャーナルのみにすることになりました。

3. 分野別利用実績について、受益者負担の根拠となる、ダウンロード件数等を確認する技術の向上を図る努力をしてゆくこと。これにより、各部署各講座の負担を正確に把握しうるものと考えられます。

4. 冊子体のジャーナルが必要な部署は、それぞれの講座等での経費で整備すること。

以上、これらの事項が決定されるまでに要した時間は、大変なものであった事を銘記しておきたいです。ただ心配しています点は、平成 15 年まで購入できたデータベースでも、利用度の低いものは削減することになる予定といわれていることです。しかしこの事項については、まだ決定しておりません。

そもそも図書館の機能とは、すでに山根副学長が述べておられるごとく、資料・情報の収納保存、情報検索、利用調整、資料・情報提供であります。そこで私としましては、次の 3 点を図書館の理念として、努力してまいります。

- ① 島根大学の教育・研究等の質の向上を図るべく、教育・研究活動の支援として必要な図書資料を収集し、教育・研究をはじめとする統合的利用者支援サービスを提供する。
 - ② 本館・分館の連携協力体制を図ること。今日的な図書館をイメージするならば、電子図書館サービスを更に進め、教育・研究への支援機能を強化し、高度化を図ること。
- であります。

学内においては以上の 2 点に集約されるでありましょうが、開かれた大学といった観点からは、

③一般社会との連携をとり、図書館の一般開放サービスや、一般市民の調査研究活動、生涯学習のための図書資料や、各国、各県の情報提供サービスをも手がける。

必要があります。

具体的には、1つのテーマとして、附属病院の患者様への情報提供サービスの向上を図るべく、附属病院内図書室（仮称）の設立を考えています。何もこの課題は私が最初に考え至ったものではなく、2000年にはその方向性は示され

てはいましたが、医学部および附属病院職員に周知されることなく日時は経過したと思われ、また今日までその気運が醸し出されていなかったのであろうと推測します。実現までには種々の問題を克服せねばなりません。私の任期中に少しでも前進させたい気持ちでおりますので、関係各位の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い致します。

（よしむら やすろう）



外国雑誌の電子ジャーナルへの移行とデータベース —アンケート集計結果と今後の対応—

1. はじめに

附属図書館では、雑誌価格の継続的な値上がりや財政事情の逼迫等により、研究室等でタイトル維持が困難となっている外国雑誌の利用環境の改善を図るため、2005年雑誌購読調査の前に、電子ジャーナル及びデータベース希望調査、経費負担方法など、学術情報の利用を中心としたアンケート調査を平成16年5月に実施しました。

研究教育活動に不可欠な学術情報量が飛躍的に増大している中で、外国雑誌についても電子化が急速に進行し、従来の冊子体による論文利用形態とともに、出版社サイトに蓄積されたデジタル論文（PDF、HTML等）を検索し、キャンパス内からインターネットを通じて、直接ダウンロードできる環境も整備されてきました。多様な形態で提供される膨大な学術論文や最新情報を効率的に検索し、目的とする論文の入手へナビゲートができる各種データベースの重要性も増しており、電子ジャーナルと統合した形での整備を進めることが附属図書館の重点課題となっています。

アンケートの集計結果は附属図書館ホームページに掲載していますが、以下にその集計結果の概要と、今後の対応状況等について述べます。

<<http://lisa.lib.shimane-u.ac.jp/joho/Enq2004shukei>>

2. 電子ジャーナル及びデータベース・アンケート集計結果概要

実施期間：平成16年5月7日～31日

対象者数：全学の教員 約720名

回答者数：369名（回収率51.25%）

設問1. 回答者の所属

法文学部	55
法科大学院	5
教育学部	37
医学部	111
総合理工学部	86
生物資源科学部	55
共同教育研究施設	18
その他	2

設問2. 研究・教育に関する情報の入手先

電子ジャーナル	292
冊子体学術雑誌	268
データベース（契約）	150
図書類	196
文献複写依頼	217
サーチエンジン、無料コンテンツ等	198
その他	8

（学会主催研究会、関連学会データベース、個人購読誌、研究会等印刷物、研究者間情報交換等）

設問3. 電子ジャーナル&DB利用状況

毎日のように頻繁に	71
週に数回	121
月に数回	78
今までに数回	53
利用したことがない	39
その他	3

設問4. 利用する理由

冊子体で購読していない雑誌の利用	256
研究室等からアクセスできる	243
時間に関係なく自由に利用できる	242
キーワード検索やリンク等の機能	193
論文が直接ダウンロードできる	214
その他	7

（保管に便利、コピー代不要、アブストラクトの閲覧、業務上必要不可欠、二次利用が容易、高検索機能）

設問5. 利用しない理由

冊子体の方が利用しやすい	21
利用法が解りにくい	20
論文入手は他の方法	17

必要な雑誌が含まれていない	16
利用環境が十分でない	3

■■■ 電子ジャーナルについて ■■■

設問6. 電子ジャーナル系列別評価、必要度集計

パッケージ名	Point
*Science Direct (Elsevier 約1,600誌)	2394
*Synergy (Blackwell 約600誌)	1616
*SpringerLINK (Springer 約480誌)	1926
*Kluwer Online (Kluwer 約646誌)	1195
*Inter-Science (Wiley 約330誌)	1318
*Cambridge Online (OUP 約154誌)	1140
Oxford Online (CUP 約110誌)	1125
Nature	1368
Science	1257
*ProNAS	649

パッケージ名	Point
*Cell	511
*ProQuest: ARL (約1,800誌)	562
*ProQuest: ML (約100誌)	438
*Gale: EA (約1,800誌)	314
*JSTOR: A&S, GS (約140誌)	489
*ACS (米国化学会 30誌)	233
*AMS (米国数学学会 7誌)	197
*AIP (米国物理学協会 11誌)	204
*IEEE(CSLSP-e, 20誌)	178

*印は2004年購読中のパッケージ

Point数値は、回答時の評価・必要度レベルを数値化（A-10, B-5, C-1）

設問 7. 電子ジャーナル系列の新規導入希望

パッケージ名	希望数	パッケージ名	希望数
Nature 本誌及び姉妹誌	92	APS (米国物理学会)	14
HighWire	32	Marcel Dekker	11
S. Karger	28	IOP (英国物理学会)	10
British Medical Association	22	Thieme Publishing	8
Lippincott Williams & Wilkins	17	ACM (米国計算機学会)	8

■■■ データベースについて ■■■

設問 8. 主なデータベース系列別評価, 必要度集計

パッケージ名	Point	パッケージ名	Point
Current Contents系		Silver Platter系	
*Agriculture, Biology & Environmental Sciences	747	*Agricola	418
*Physical, Chemical & Earth Sciences	578	*ERIC	267
*Engineering, Computing & Technology	347	*GeoBase	163
*Life Sciences	844	*MathSci	258
Social Behavioral Sciences	198	*MLA	211
Art & Humanities	196	*PsycINFO	220
Clinical Medicine	550		
*INSPEC (IEE, 英国電気通信学会物理理工系データベース)	429		
*Journal Citation Reports (雑誌評価ツール)	618		
*NACSIS-ELS (国内学協会電子雑誌等約420誌)	698		
*朝日新聞DNA (朝日新聞Web版 1985～当日)	440		
*SwetScan (14000誌データベース)	514		
*Magazine Plus (雑誌記事索引)	425		
*Ovid DB (CINAHL, EBM)	797		
*JDream (科学技術文献データベース)	252		
*医学中央雑誌	811		
*法律関係DB(国内判例, 文献情報等)	458		

*印は2004年購読中のパッケージ

Point数は, 評価レベルを数値化 (A-10, B-5, C-1)

設問 9. 引用・研究動向調査, 専門分野データベースの要望など

Web of Science (引用・研究動向調査データベース, 全分野) ISI社	142
Scopus (索引・研究動向調査データベース, STM分野) Elsevier社	65
Lexis Nexis (法律・経済関係データベース)	29
SciFinder Scholar (Chemical Abstracts)	22

■■■ 学術和雑誌 ■■■

設問 10. 学術和雑誌の利用体制について

重複タイトルを抑制して経費節減とタイトル数の整備・充実をはかる	179
基本的タイトルについて, 本館, 分館に配架して共同利用する	168

共同利用タイトルは共通経費化し、データ分析等により定期的に見直す	123
講座、研究室、資料室等で購読、利用する（松江キャンパス）	63
医学分館、研究室等で購読、利用する（出雲キャンパス）	40
その他（予算を分散せず電子ジャーナルに重点化、図書館集中配架・共同利用）	7

■■■ 経費負担方式 ■■■

設問 11. 電子ジャーナル群（系列）の経費負担について

全額を全学共通経費から負担	211
全学共通経費＋学部経費からの負担	130
その他（利用実績データにより、学部、学科・講座負担等も加味すべき）	7

..... 意見、要望等

- 電子ジャーナルは研究遂行に非常に有用であり、重要な情報源である。継続的・安定的なサービスを強く希望する。経費負担は全学的なバックアップの元に行われるべき。
- 大規模大学に比べて、情報入手の経費負担比率が大きくハンディキャップとなっている。
- 小さな大学だからこそ、主流でない分野でも地道な研究を継続できる環境の維持は重要。
- 経費負担の不平等感は解消すべきであるが、大学は本来こうした情報を教員のみならず学生や学外者も含めて提供する使命があると考えられるので、単純な受益者負担の発想はなじまない。
- 限られた予算でできるだけ多くの文献にアクセスできるよう、全体の裾野を広げるべき。
- 冊子での購入をやめて電子ジャーナルのみにすることも視野に入れるべき。
- 冊子が持つ諸々の文化的意義は捨てがたいが、まずはコンテンツの充実が急務である。
- 電子ジャーナルへ移行する時期で、紙媒体購読は電子ジャーナルがない場合の例外措置とすべき。利用形態からみれば、経費は全学共通経費しかない。
- 大学間コンソーシアムを利用してオンラインで読める雑誌を増やしてほしい。
- 研究・教育にとって、データベースと電子ジャーナルの重要性は以前より増している。
この両方がないと、現在の研究の流れから置いてきぼりとなる。冊子を見る機会はぐっと減った。
- 医学系のメジャーな雑誌も読めないものが多い気がするので、契約数を増やして欲しい。
- 電子ジャーナルや“Web of Knowledge”などの評価データベースは、地方大学が研究情報の面で不利とならないために、優先的に充実させる必要がある。中央の大学であれば、近隣の大学や図書館での文献調査が容易であるが、地方大学ではそうは行かない。大学が研究面での成果を求めるのであれば、共通経費を優先的に使用して、全学的に整備しなければならないと考える。
- 大学は単に教員に成果を求めるだけでなく、組織として成果を出しやすいような環境を整える等のサポートを、積極的に行うべきである。
- 実験装置やスーパーコンピューターなど、ハードウェアの整備も重要であるが、ソフトウェア的情報基盤を充実させることは、専門分野によらず恩恵を被ることができ、有効かつ不可欠である。
- シンクタンクとして存在するためにも、学術雑誌等の購入数は維持されるべきだと思う。
- 重複タイトルを整理して経費節減をはかるとともに、可能な限り電子図書館化することが望ましい。
- 県下には充実した図書館がないので、地域貢献の観点から、住民利用も前提にした地域のハブ図書館化を長期的に展望すべきである。
- 教員のアンケートだけでは実態は把握できない。大学院生や4年生は、修士論文研究、卒業研究およびゼミナールにおいて、電子ジャーナルをかなりの頻度で利用している。学生の教育研究に関しても電子ジャーナルは重要である。

※ご多用中のところ、アンケートにご協力をいただいた方々に深く感謝いたします。

3. 平成17年度以降における電子ジャーナル整備計画

外国雑誌を中心とした一定枠の電子ジャーナル導入について、図書館運営委員会、教育研究評議会、役員会などで継続的に審議された結果、今後2カ年にわたり、12系列のタイトル（図表1.）について、部局負担を加味した共通経費による全学的購入体制が承認されました。今後は冊子体雑誌の購読維持に関係なく、一定規模の出版社系列誌について、数年分のバックファイルを含めた利用が可能となります。

図表 1. ●平成17年度以降維持する電子ジャーナルリスト

no.	電子ジャーナル名	出 版 社	収録概数
1	Science Direct	Elsevier Science	1,600
2	SpringerLINK	Springer Verlag	500
3	Synergy	Blackwell	600
4	Inter-Science	Wiley	330
5	Kluwer Online	Kluwer	700
6	Cambridge Online	Cambridge University Press	154
7	Oxford Online	Oxford University Press	110
8	Nature & Research誌	Nature Publishing Group	9
9	Science	MacMillan	1
10	ProNAS	NASUSA	1
11	JSTOR	Mellon Found.	124
12	ProQuest : ARL, ML	ProQuest I&L Co,	1,700
	合 計		5,829

＊平成17年度にキャンパス内から利用できる電子ジャーナルは、上記タイトルのほか、講座、研究室等で購入される学協会誌やフリーアクセス誌などを含めると、約7000誌ほどになります。

4. 今後の課題

平成17年度以降における電子ジャーナルの整備計画に基づき、次年度の雑誌購読調査を各講座・研究室に対して行った結果、松江キャンパスでは、電子ジャーナルでサポートされないタイトルについても、大幅に購読中止の申し出がありました（図表2.）。この購読中止は、ほとんどがキャンパス内に重複購入がない固有のタイトルであり、学内で直接論文が利用できる環境が失われることになります。

講座・研究室の財政逼迫は予想以上に進んでおり、中止になった雑誌をカバーするために、最新情報が網羅的に検索できるデータベースの整備や、原文献が速やかに入手できる文献複写依頼システムの提供などが重要になります。

図表 2. 平成16年度冊子体雑誌購読調査表

キャンパス	区分	継続	中止	新規	2005年 購読予定	2004年 購読数	キャン セル率
松江キャンパス	外国雑誌	461	428	6	467	889	48%
	和雑誌	893	339	5	898	1,232	27%
	小 計	1,354	767	11	1,365	2,121	36%
出雲キャンパス	外国雑誌	266	32	12	278	298	7%
	和雑誌	224	3	2	226	227	0.4%
	小 計	490	35	14	504	525	4%
大 学 全 体	合 計	1,844	802	25	1,869	2,646	30%



このシリーズでは、島根大学所蔵の資料の中から興味深いもの、学術的価値の高いものを選び、順次紹介していきます。第1回は、本館所蔵桑原文庫『雲陽秘事記』と、『寛永出雲国絵図』を取り上げます。

『雲陽秘事記』

田中 則雄（法文学部国文学研究室）

江戸時代の本は、〈写本〉と〈版本〉の2種に大別される。〈写本〉とは筆写された本、〈版本〉とは版木に文字を彫って印刷して作られた本のことである。この『雲陽秘事記』は〈写本〉である。本書は松江藩歴代藩主と家臣に関わる逸話の集成であるが、このような大名家ははかに関わる話というのは当然ながら印刷出版は憚られるので、人の手によって書き写され読み継がれて来たのである。

松江藩松平家の初代直政なおよさ(1601-1666)から6代宗衍むねのぶ(1729-1782)までの事柄を扱う。書かれたのはおおよそ19世紀の初め頃であろうか（ただし桑原文庫本は、後の明治元年(1868)に書き写したものである）。著者については全く知る手がかりがないが、これだけの事情通であることから藩に深い関わりを持つ人物かと想像する。



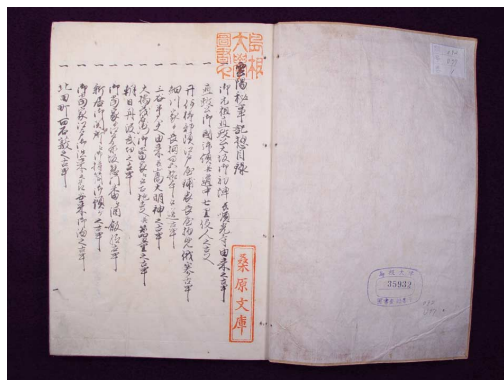
まず初代直政に関する話の中から挙げてみよう。巻頭第一話は直政の初陣武勇談である。直政は、越前松平家の秀康（徳川家康の子）の三男として生まれた。1614年大阪冬の陣が起り、

兄の忠直が出陣しようとした時、わずか14歳の直政は、自分も同行したいと申し出た。未だ若年ゆえ思いとどまれと諭す忠直に、彼は「ぜひとも兄君の御馬先で天下に名を上げる働きをしたいのです」と思い込んだ表情で述べ、忠直はそれを受け入れた。12月4日、越前松平軍は真田幸村の城堡へと迫ったが、中から打ち出す弓鉄砲に攻めあぐみ、誰一人進むことができなくなった。その時、

紫むらさき威さをとしの鎧よろひに同じ色かぶとの甲を着し、黒毛の胸に打ち乗り、軍勢の中を懸け抜け、真田丸へ真一文字まことに乗り行く者あり。人々是を見るに、松平出羽守直政公也。

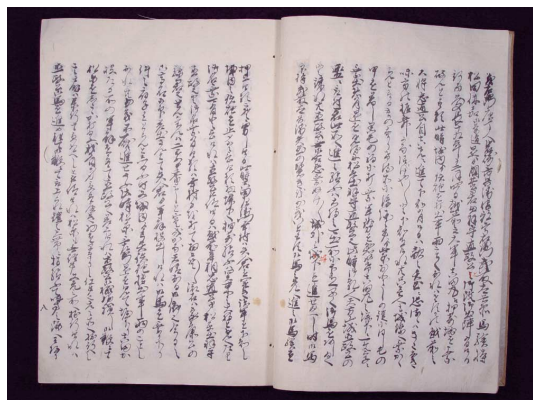
これを見た真田は「徳川方の大将とお見受けする。名乗られよ」と声を掛け、直政は堂々と応じる。真田は感嘆して、「さすがは家康公の御孫。今日の御高名の印を差し上げよう」と言って軍扇を投げたが、それは堀に落ちた。直政はこれを取ろうと、打ち出す弓鉄砲を物ともせず進むが、家臣の松原三左衛門が気を利かせ先に回って取り上げた。直政は突然機嫌を損じ、「私が自ら取るべきものを早まったことをしてくれた。即刻元の場所へ戻せ」と叱責し、改めて扇を取り上げて帰陣した。わずか14歳にして武勇を示した直政、その様を見て敬意をもって遇した真田、それに応える直政の心意気というのがこの話のテーマである。しかし実際のところ、それこそ矢や鉄砲玉が飛び交う中で誰がどう喋ったかなど逐一記録するすべなどあったはずがない。

何らかの言い伝えが元になって尾ヒレが付いて話がもっともらしく膨らんで行くというのが、この類の書物におけるお決まりのパターンである。ただしその尾ヒレには、「この人にはこう喋ってほしい、こう行動してほしい」という、書き手の思い入れや願望のようなものが込められている。

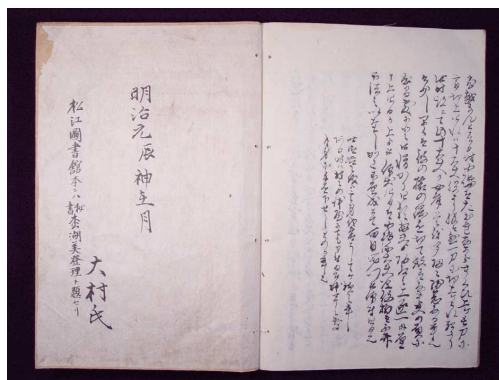


また次のような話もある。藩主として松江へ移ってからのこと、直政は鷹狩りに出て多くの鴨を仕留めた。料理人に、「番士たちも寒中の勤務ご苦労であるから、一緒に呼んで食べさせよ」と命じた。番士たちが部屋へ入った時、殿様自ら料理を平皿に盛りつけておられた。ところが番士の一人が、燭台の灯りがほの暗かったためこれを見誤り、殿様の背中をたたいて、「親父親父、鴨の身所を沢山に盛り呉よ」と言った。普通なら一瞬空気が凍り付きそうな場面である。ところが殿様は「殊の外御笑ひ遊ばされける」——大爆笑で終わったのである。

この書物の書き手は、このような話をも収録することによって、直政を武勇一点張りの人物ではなく、温かい人間味を備えた人物として捉えようとしているのである。



次に藩士に関わる話から挙げてみよう。4代吉透(1668-1705)の時代、江戸藩邸常駐の鈴木八左衛門という者がいた。芝居(歌舞伎)見物に出かけた時のこと、遅く来て割り込もうとした若者たちが鈴木の前を通る時、誤って刀の柄を踏んでしまった。鈴木が「武士の魂を足下に懸る事、言語道断」と激怒すると、若者たちも罵り返し喧嘩となった。すると鈴木は突然花道から舞台へと上がり、「松平出羽守家来鈴木八左衛門とは我が事也。何万人来るとも、寄り来る者はなで切て捨つべし」と大音で述べた。続いて、同じく松平家(ただし松江藩以外)の家臣と称する武士たちが次々に花道を通して舞台へと登場し、これを見た若者たちは尻込みした。その時座元(興行主)が舞台に上がり、「段々の不調法真っ平御免下さるべし」とことわる。これにて丸く収まった。書き手はこの一件を、鈴木が場所柄をよくわきまえ、うまく計らったものであると評している。



本書は、時代を経て言い伝えられて来た事件や、藩主らの言動の一々をあたかも見て来たかのように書いている。これらを真に受けて歴史的考証の材にするというわけには到底行かない。しかしここにこそ、本書の面白さ—小説的魅力—が存在する。フィクションの部分には、人物や事件に対する書き手の解釈、思い入れや願望が込められている。そして全体に、それぞれの人物の心に分け入って理解しようとする温かいまなざしが行き渡っている。こうして描かれた松江藩の面々は、時代を隔てた我々にも、身近にいる人のような親しみを覚えさせてくれる。

(たなか のりお)

『寛永出雲国絵図』のこと

島根史学会会長 池橋 達雄

本年7月2日から5日まで、松江市で第47回歴史地理学会島根大会が開催された。島根大学の林正久(大会実行委員長)・船杉力修(事務局)両先生をはじめ、地理学教室の諸先生、島根地理学会会員の諸先生の周到な計画準備があって、大会は成功し、全国からの出席者にも好評価をいただいた。

この大会に合わせて島根県立博物館・島根県立図書館・松江郷土館3館合同で絵図展(博物館・郷土館では6月1日～8月1日、図書館では7月3日～4日)が行われ、100点を越える絵図等が公開展示され、うち60点ほどについての図録「絵図でたどる島根の歴史」が編集刊行された。この企画も好評で、一般県民市民の皆さんにも喜んでいただけた。

私は島根史学会会員の皆さんと、この大会の企画実行にあたって絵図展・図録刊行に協力することとなり、1年前の昨年7月ごろから作業を始めた。3か所の絵図展会場にはそれぞれテーマがあって、博物館は出雲大社と石見银山、図書館は国絵図、郷土館は松江城下図と出雲石見のタタラ製鉄と隠岐を含むいわゆる西廻航路をポイントとしたが、出展の資料については、島根大学附属図書館をはじめ、県下の諸機関から惜しみなく貸与され、充実した内容のものとなったことが嬉しかった。郷土館で観覧者の目をとくにひきつけたもののなかに、島根大学附属図書館蔵の「堀尾時代松江城下図」がある。これは松尾壽名誉教授が島根大学在勤中に購入収蔵されることになったもので、先生の研究を通じてよく知られていたが、学外で公開展示されたのは今回が初めてで、附属図書館のご高配に感謝したい。

ところで、附属図書館には「寛永出雲国絵図」という貴重な絵図が収蔵されている。今回は、のちに述べる事情で出展されなかったが、以下これを含めて国絵図の話を少々させていただく。

国絵図というと、近世江戸時代に幕府が命じて提出させた国ごとの絵図を指すことになっており、その提出は、慶長・寛永・正保・元禄・天保の5度に及んでいる。

正保2年(1645)の国絵図の提出に際して、幕府は統一基準を示し、縮尺は1里6寸とすること、国絵図2部・郷帳(郡別村別石高帳)2

部に城絵図を添えること、そして国絵図には主要道と一里塚・港湾の状況などを記すよう命じている。慶長・寛永のものはまちまちであるが、正保・元禄・天保のものは上記基準に合った整然とした体裁をとっている。

話を出雲国絵図に限りたい。そもそも私が国絵図に関係をもつことになったのは、去る平成5年(1993)度に、県の歴史の道調査委員になったときからであった。文化庁が指導する事業で、同庁からまず正保・元禄・天保の国絵図を閲覧、各県で取り上げる街道等をそれらでもってまず決めるように指導があった。国立公文書館へ出かけて、正保・天保の国絵図をみたが、正保のものは写本、天保のものは正本2部(紅葉山文庫・勘定所のもの各1部で、昭和58年に国重文に指定されている)があった。出雲国絵図の大きさは、ざっと畳8枚ほどのものであった。

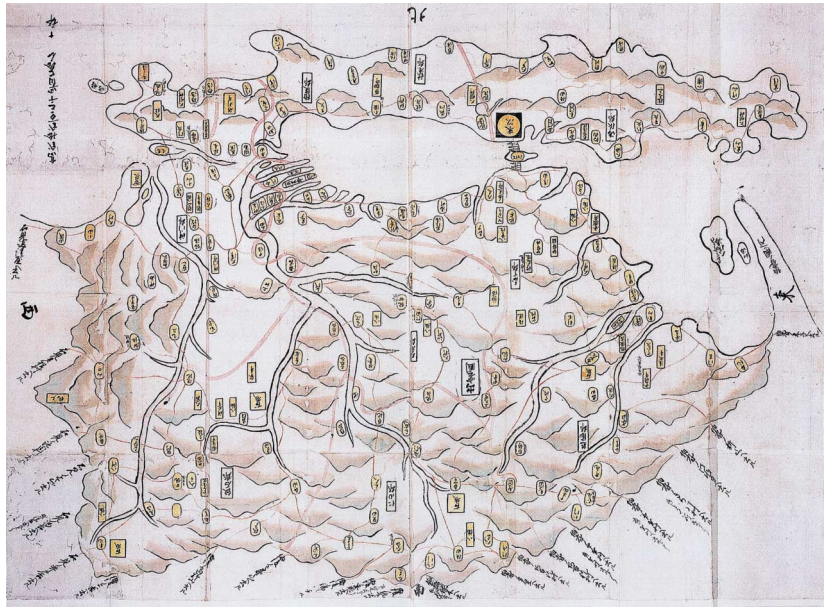
この時点では、出雲国絵図は正保・天保両度の提出時のものしか存在が確認できなかった。慶長・元禄のものは出雲の場合残っておらず、寛永のものについては、それが幕府命でいっせいに制作されたかどうか確認されていなかった。

国絵図の制作提出が5度あったことを含め、国絵図についての研究が大きく進捗したのはここ10年ほどのことである。

出雲については、平成7年(1995)に元禄国絵図の原図が発見された。松江市の野津隆氏から、1里3寸縮尺(約2畳の大きさ)の精巧な絵図を所蔵しているとのお知らせを受け、当時県立図書館におられた藤沢秀晴先生といっしょに同図書館で拝見した。絵図の隅のところに「出雲国 10 郡の郡ごとの石高村数が記入されていて、その合計が28万2489石余と記されている。ちなみに正保の場合は25万3597石余、天保の場合は、30万2627石余である。この数字が手がかりとなって、野津家蔵のものが元禄度の国絵図であることが判明した。なお、この絵図の松江城の部分と上の石高村数記事の後の部分に、「莊五郎」と書いて削り取られていることも読めた。莊五郎は第5代藩主松平宣維の通称である。そこで第4代藩主吉透のときにこの絵図が原図として作成され、江戸で狩野派の絵師によ

って数部が拡大清写され、元禄15年(1702)の指定期限までに幕府へ納められ、その後、この図が嗣子莊五郎に与えられた、と考え、私はこれを元禄出雲国絵図の原図と推定した。野津家への伝世の事情は不明である。松江市は本年6月、これを市の指定文化財にしたが、嬉しいことであった。

野津家の元禄国絵図が世に出たあと、私は大社町に2枚写本があることを知り、さらに本年3月、広島大学附属図書館に天保9年(1838)と表書きされてはいるが、実は元禄出雲国絵図に違いないものが収蔵されていることを確認した。これらについての詳細は略する。



島根大学附属図書館蔵「寛永出雲国絵図」

95 × 133 cm

さて、寛永国絵図のことであるが、ここ数年の川村博忠氏(東亜大学教授)を中心とする研究者の追求によって、寛永10年(1633)の第1回巡見使が各国に提出を命じた国絵図の写本が、岡山大学附属図書館の池田文庫ほか数か所に存在することが判明して、池田文庫本が、一昨年の平成14年(2002)『寛永十年巡見使国絵図 日本六十余州図』とし、川村氏の解説書を添えて、柏書房から出版された。

そして本年1月、島根県立博物館が川村氏の鑑定をいただいた上で、某古書店から寛永出雲国絵図写本1部を購入され、これが今回の展示で公開され、博物館展示品のなかでも観覧者の目を特にひきつけた1点となった次第である。

以上2つの寛永出雲国絵図ではともに写本ながら博物館収蔵のものが価値が高い。それは、この方が、郡境の記述・街道の一里塚の記載、そのほかいろいろの点で精度が高いからである。こうして出雲国絵図が寛永度(写本)・正保度(写本)・元禄度(原図)・天保度(原本)と4つ出ることになった。

実は、昨年からの絵図展・図録の仕事に船杉先生から、島根大学附属図書館にも、昭和54年(1979)度に購入収蔵された出雲国絵図が存在すると教えられた。調査の結果、寛永出雲国絵図であることが判明した。写真でみると上記池田文庫本と同様、総石高が22万3470石と記されている。価値は池田文庫本と同格で、結局博物館展示には同館の新規収蔵のものをとり上げたわけである。島根大学附属図書館収蔵の寛

永出雲国絵図にその当時ふれても、正直のところ私にはそれが非常に価値あるものと見抜く力はなかったと思う。しかし、いまだ少し早くアクセスできていたらと思う気持ちも強い。

最後に国絵図によって得られる貴重な情報のことについて少々のことを述べたい。たとえば、斐伊川の東流がいつであったかということについて、『旧県史』はこれを寛永16年のこととし、『旧松江市誌』はこれを同12年のこととしているが、寛永10年の寛永出雲国絵図はこれがもっと早かったことを示している。私は元和2年(1616)に三木与兵衛が手がけた菱根池干拓の事実から、それは慶長期以前と考えている。このほか、宍道湖・中海の湖岸線のことなど読みとれる情報は多い。

ただ注意しなければならないことがある。出雲では、万治元年(1658)に郡村入替があつて、出雲・楯縫・神門3郡の郡域が大きく変わったが、その後の元禄・天保の国絵図はこのことを示してはいない。また、文中にふれた石高であるが、松江藩は寛文印知以降表高は18万6000石であつたが、各期の国絵図の示す実高が大きく増加している。この実高がどれほどの「実」に近いのか、こういう点も吟味が必要である。今後島根大学附属図書館蔵の国絵図を含め、県下の国絵図研究が進展し、さらには国絵図をふまえた地域史研究が展開することを期待したい。

(いけはし たつお)

Library Column

【リンク】

附属図書館電子情報係

リンクとは、一定の検索システムやプラットフォームの検索結果から、同一著者の別の論文や、論文掲載誌の目次の通覧、あるいは関連文献や引用文献などをクリック操作で表示する機能です。当初は同一データベース内に限定されていましたが、リンク仕様の標準化等により、現在では各種プラットフォームを越えて、データベース相互や多様な学術情報レベル(誌名, 抄録, Fulltext)に加えてOPAC(所蔵目録)へもリンク設定が可能になりました。Web リンクは、データベースや各種メニューを介した論文の全文表示や OPAC による印刷体資料への誘導、また、多種多様な形態で提供される学術情報を分類・整理して迅速に、効率的、かつ統合的に利用者に提供するものであり、電子図書館の現場では、必要不可欠な機能となっています。

現在、図書館ホームページで提供中の各種リンク機能について、その概要を紹介します。

◆ Current Contents Connect

検索結果詳細画面

JCR Link (Impact Factor表示)

EJ Link (Fulltext Link)

OPAC Link

・OPAC Link→大学所蔵データ表示(誌名,巻/号,配架場所等)

◆ SPIRS 系 (PsycINFO例)

リンク先選択画面

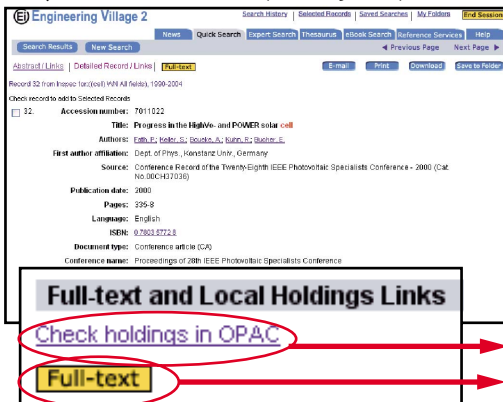
OPAC Link

EJ Link

*複数のリンク先がある場合、緑色のリンク先選択画面が表示されます。

“EJ”はElectronic Journal(電子ジャーナル)の略称です。

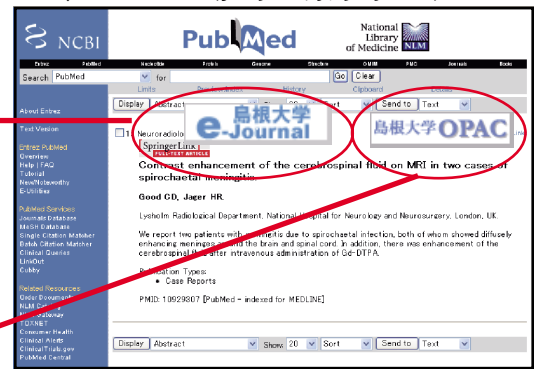
◆ EV2 INSPEC (理工系DB)



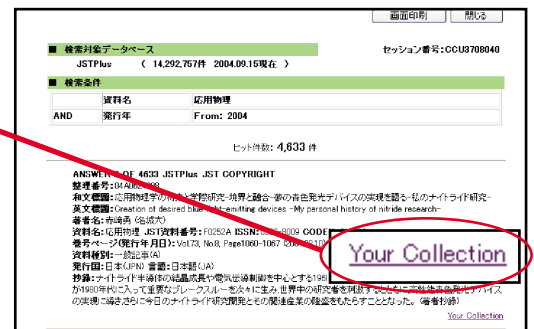
EJ Link

OPAC Link
EJ Link

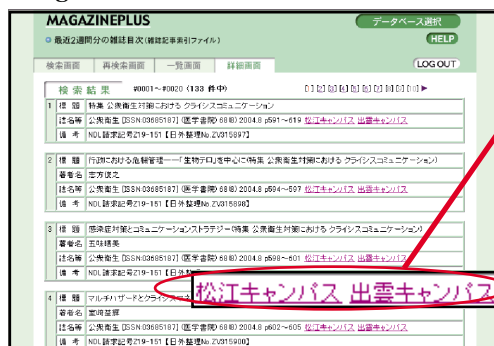
◆ PubMed (医学・薬学系DB)



◆ JDream (科学技術文献速報)



◆ MagazinePlus (雑誌記事索引)

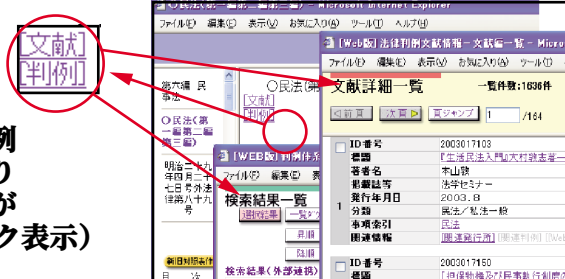
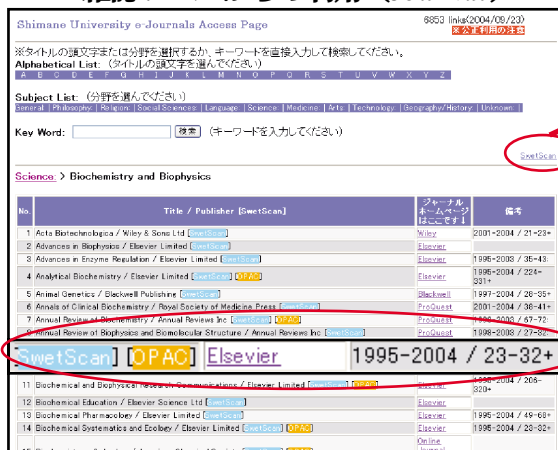


*キャンパス毎に表示

OPAC Link

◆ 法律系データベース相互リンク

国内法律系データベース（現行法令／判例体系／判例文献情報[第一法規]）についても、リンク機能によりデータベース相互を連動させたダイナミックな利用ができます。（cf. 現行法令から判例体系、文献情報リンク表示）

◆ e-Journal Access Page (EJアクセスツール)
雑誌レベルからの利用 (Journal)◆ SwetScan (目次速報DB)
論文レベルからの利用 (Article)

Webcat/各種EJ Link(全文収録)

複写依頼

・目次表示/OPAC Link/EJ Link/EJ収録範囲
(現在、両キャンパスの図書館システムが異なるため、医学部の文献複写依頼は従来の方法によります。)

松江キャンパスから

図書館をどのように利用しているかは人によって違うでしょう。新聞などを読みに来ている人や、レポートを作成しに来ている人など、利用の仕方は色々だと思います。

私の最近の図書館の使用目的は、主に学術雑誌の論文を探すことです。低学年の方々はまだあまり必要ないかもしれませんが、3, 4年生頃から始まる研究室ゼミや卒業研究では、まず文献の検索が必要になります。自分のやろうとしている研究に関連した既存の研究結果について調べるためです。

図書館にはとても多くの図書や雑誌がありますが、自分の欲しい情報が載っているものを見つけることは大変だと思っている人も多いと思います。最近ではどの図書館でもパソコンを使った蔵書検索ができ、簡単に思い通りのものを探し当てることができます。もちろん島根大学の図書館でもできます。しかし、この蔵書検索を利用してちょっと使いづらいな、と思ったことのある人もいるでしょう。私も島根大学の図書館が用意している文献検索を利用して、少し絞り込んだ検索をすると全然ひっかからないことがよくあります。例えば、学術雑誌を検索中に、専門用語のみを入力してキーワード検索をかけた場合などです。そんな時には電子ジャーナルやデータベースが有効な手段になります。

電子ジャーナルとは、学内LANを通じて文献を閲覧でき、印刷すれば文献が手に入るというすばらしいサービスです。しかしこのサービスは、最近5年から10年程度の新しい文献しか押さえておらず、古い文献はあまり掲載されていません。古い文献を調べたいのなら、文献データベースが有効になってきます。文献データベースとは、LAN上で文献などを詳しく検索できる便利なサービスです。これを使って欲しい文献を探し、図書館で複写依頼をすれば、島根大学に無い文献でも手に入れることができます。

このように、様々な情報を検索できるサービスがあります。その評価は、情報量の多さや、その膨大な情報量の中からどれだけ欲しい情報を検索できるか、によると思います。一般に図書館の評価として蔵書量などが挙げられますが、これからは、膨大な情報量の中から、欲しい情報をいかに簡単かつ迅速に検索できるか、とい

う能力も図書館の評価として必要なのではないのでしょうか。

そこで、私がお勧めする図書館の利用方法として、インターネットでの検索と、図書館の蔵書を組み合わせてみるというのはどうでしょうか。図書館のパソコンだけでなく、個人のパソコンを持ち込んでインターネットに接続することもできるので、インターネット情報と図書館情報の両方を、一度に利用することができます。両方を組み合わせれば鬼に金棒です。自宅でもインターネットはできるかもしれませんが、図書館にある本の情報と、インターネット上にある本の情報の両方を利用できるのは図書館くらいだと思います。私もよくインターネットで興味のあることを調べる時に、もう少し詳しく知りたい、ということが多々あります。そんな時、目の前に詳しく書かれた本があれば最高ではないのでしょうか。

新しい図書館の利用方法

総合理工学部研究科2年
村本 健

皆さんもまず知りたいことがあったら、パソコンを持って図書館に行ってみてはどうでしょうか。私のように研究の資料を調べに行くだけでなく、自分の興味のあることを調べに行くのにも最適な場所ではないかと思います。現在の情報社会の中では、自分の欲しい情報を的確に検索できる能力を持つことが、自分自身の最大の武器になると考えても過言ではありません。

最後に、最近インターネット上でもモラルに反したことをする人がいます。ネット上でも図書館でも、他の利用者に迷惑のかからないように楽しく利用してくれればと思います。

(むらもと たけし)

出雲キャンパスから

図書館でアルバイトを始めるまでの私の図書館利用率は、恥ずかしながらほとんど無いに等しい。試験前に少し勉強をしたり、レポートのために数冊借りるという程度で、長居することにはなかった。このようにほとんど図書館に赴くことのなかった私であるが、友人の紹介で4月からアルバイトとして仕事をすることとなった。

初めてカウンターに座ったときは、不慣れな空間にそわそわしながら業務マニュアルを読み返していた。始めのうちは『OPAC』などの所蔵検索方法の使い方もままならなかった。2年時の講義で一度使い方を教わったのだが、勉強不足で使う機会も少なかったためである。カウンターに座るものがこんな調子でいいのだろうかと不安を抱え、検索方法を尋ねに来られた利用者の方にもご迷惑をおかけしたと思う。しかしひとつひとつ仕事に対処していくうちに使い方も覚えることができた。

図書館で仕事をして

医学部看護科3年 堀 良子

図書館の主な日常業務として、配架と文献複写という仕事がある。配架は書物を元の場所に戻し、文献複写は依頼票の文献を探してコピーをとるといふどちらも単純な作業である。しかし配架場所を把握するまではたいへん時間がかかった。見当はずれなところを探しては時間を食い、間違いに気づいては脱力した。気力と根気を要する作業である。

文献複写は具体的に言うと、文献複写依頼票で、まず図書か雑誌か、雑誌ならば製本済みか未製本かを見て、次に洋書か和書か、次に発行年、ページ数、論文タイトルという順にチェックをしながら文献を探し出す。私がよくした間違いは、書名を見て確かこれはこの辺りだと見当をつけ探していくのが見当たらない。発行年を見落としているからである。この間違いから、まず発行年をチェックする習慣をつけた。

しばらくしてその作業にも慣れると、幾分余裕も生まれた。配架する書物や文献を手にする時、その書名や論文タイトルに作業的に目を通すだけでなく、関心を持つようになった。そうするようになって、配架場所も覚えが良くなったように思う。

時間に余裕のある日などは、気になるものに出会おうとパラパラとめくってみた。普段の勉強では与えられた教科書を読むばかりで、おそらくここまで探し出して手にすることなど無いだろうというものに出会う。そのような書物と少しだがふれあえたことに、うれしくなるのである。

また、図書館を良く利用している方々の顔も覚えた。いつも熱心に勉強している姿には見かけのたびに感服した。土曜日と日曜日は朝10時からバイトが始まる。まず閲覧室の机拭きを行うのだが、ひっそりとした館内で、一人二人がぼつりぼつりと座り勉強している。この姿を見たときは特にそういう思いになった。図書館の窓を開け、空気を入れ替えては、さらにさわやかな気分を味わうのである。

アルバイトをしていなければ、知ることや出会うことのなかった書物にふれることも、図書館で勉強する利用者の姿にも気づかなかっただろう。そしてこれらは私にプラスの影響を与えてくれた。利用者側からだけでは感じることの無かったことに、図書館で仕事をしてみて、アルバイトという視点から様々なことに気づくことができた。

島根大学医学図書館のイメージは、私の中で大きく変わった。過ごしやすい快適な存在としてである。医学、看護に関わっている学生や教授、医師、看護師などが図書館を訪れては、目的をもって勉強している。そのような姿をあらためて意識してみると、自分の勉強のモチベーションも高まるのではなかろうか。

最後に、図書館利用法は利用者一人一人がオリジナルに持っていると思う。最低限のマナーを守って有効に活用していただきたい。

(ほり よしこ)

平成16年度大学図書館職員長期研修に参加して



平成16年7月5日から7月16日にかけて開催された図書館職員長期研修（以下長研）に参加する機会を得ました。本年度は国立大学法人化後最初の年でもあり、また図書館情報大学と筑波大学の統合により、筑波大学の主催となったことで、従来より期間が短くなりました。開催地も、東京のオリンピック記念青少年総合センターのみで行われました。開催時期は梅雨なので、そう暑くはないだろうと思っていたが、今年は梅雨らしさはまったく無く、研修開始とともに夏真っ只中のような暑い毎日となりました。研修には全国の大学図書館から42名が参加し、各界の専門家による26の講義と、2つの討議と、国立国会図書館の見学がありました。

電子情報係

福山栄作

大学改革と図書館に関する講義では、国立大学法人化により特色ある大学作りが必要とされ、研究成果を発信していくことが求められてきていること、また会計基準も財務制度が取り入れられることになり、従来とは異なった処

理が必要となるようだが、今回の研修では細かな事例までは紹介されなかった。予算面でも厳しい状況となり、より効率的にサービスを行っていく必要が生じてきている。

図書館の管理運営面では、従来からの図書館の役割に加え、新たに大学生産物の整理発信や、大学図書館で提供するサービス品質の評価を経営的視点からも行う必要が生じてきていること、サービス企画の計画、実行、評価のマネジメントサイクルを、恒常的に機能させる必要性が説かれた。

電子図書館的機能に関する講義では、これまで進められてきた電子図書館的機能の経緯と、電子ジャーナル導入の現状と課題、海外におけるeラーニングの実験と成果について説明された。

学術情報の流通に関する講義では、国立情報学研究所で提供されるGeNii（学術コンテンツポータル）のCiNii（論文情報ナビゲータ）により、国内生産論文情報の集約提供や、グローバルILLの現状と展望が説明された。多様化する情報サービスでは、従来の情報リテラシー教育と、これから必要とされる図書館での情報教育の違いや、情報化社会での図書館機能について講義が行われた。

電子的なものだけではなく、古典資料の保存と利用法や、新しい建築基準での図書館建築などの講義もあった。また討議では、各大学からの参加者とともに、各大学で行われている企画や問題など、様々な意見を交換することが出来た。

講義とは別に、国立情報学研究所と明治大学を、講義終了後見学させていただく機会も得た。国立情報学研究所では、現在企画されているメタ情報収集企画や、国立大学法人化による組織の変更とサービスについて聞くことが出来た。明治大学では、近年改築が完成した、真新しく近代的な図書館の新機能とサービスについて見学することが出来た。

本研修を通じて、現在大学図書館が置かれている現状と課題、図書館本来の機能と新しく求められる大学図書館像について研修する機会を得る事が出来ました。一緒に研修を受け、情報交換を行った各図書館の皆さん、お世話になった筑波大学の方々に感謝します。

（ふくやま えいさく）

職 員

この4月から図書館に勤務することになった4名の職員を紹介します。



図書情報係 舟木 望実

「頭の中がまっさらな方がいい」といわれて、4月から新選書システムでの図書発注・受入を担当させていただくことになりました。

大学法人化に伴い、データベースを利用した図書購入が本格的に導入されました。様々なご意見をいただきますが、インターネット上で、読みたい本の購入希望や依頼をいつでも出せるということは、先入観が全くなかった私にとって『早い！簡単！便利！』と（怪しげなセールスではありませんが）学内中に売り込みたいくらいです。この良さが皆さんに伝わればと、少しでも早く、確実に、図書を提供できるように、不器用ながらもデータと奮闘している毎日です。

パソコンがご希望の本との橋渡し役になります。ぜひご利用ください。



雑誌情報係 長田 美加

雑誌情報係で、主に寄贈雑誌を担当しています。

寄贈雑誌は毎日、もちろん無料で（だから寄贈なのですが）、様々な大学・企業・政府・研究機関などから送られてきます。書店で購入できるものもありますが、多くは普段あまり目にしない馴染みの薄いものではないでしょうか。私も担当になって初めて開いた雑誌ばかりですが、意外に（失礼ですが・・・）おもしろいものもあり、つい見入ってしまいます。今度、レポートや試験勉強で忙しくない時に図書館へ来られたら、ぜひ寄贈雑誌も手に取ってみて下さい。おもしろい発見があるかもしれません。



利用サービス係 園山 典子

カウンターのある利用サービス係でお世話になっています。

図書館には決まりがたくさんあり、日々新しい出来事に遭遇しては、それと決まりを照らし合わせて対応するのが大変ですが、最近になって、図書館の決まりは利用者全員が快適に利用するために、本当に細やかに考えられたものであることに気がきました。一方で図書館にはいろいろな機能があり、決まりをきちんと守りながら、上手にその機能を活用している人を見ると嬉しくなります。

決まりの範囲内で、分からないところは遠慮なくカウンターに聞いて、どうか図書館を有効に利用して下さい。



医学情報サービス係長 吉井 紀子

長らく島根医科大学図書館におりました古株です。ニューフェースとして本欄に登場するにはいささか面映い感がありますが、松江キャンパスの皆様にはお初にお眼にかかります。医学分館のカウンターにいますので、どうぞお声をかけて下さい。

この3月までの4年間、徳島県の鳴門教育大学の図書館に勤めていました。教育系単科ということで医学分野とは異なる蔵書、サービス、教育研究活動や大学運営を見聞きして、図書館の差異にカルチャーショックを覚え、良くも悪くも自分が医学図書館でやってきたと自覚しましたが、鳴門教育で古文書や検定教科書の整理などに取り組めたのは貴重な体験となりました。これからは医学分野4年間のブランクを取り戻し、進んでいる学術情報環境下での図書館サービスを考えて行きたいと思っています。

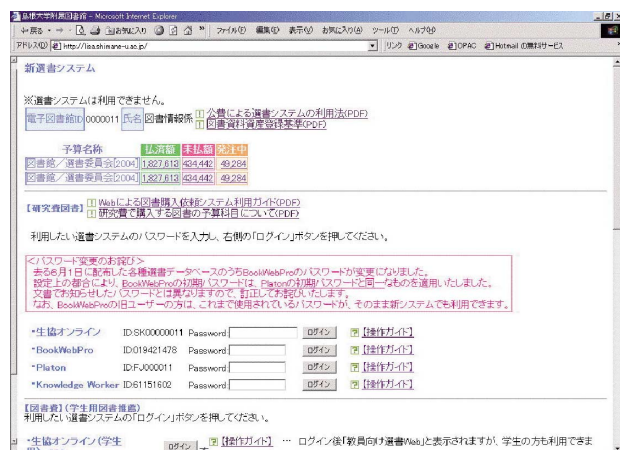
図書館からのお知らせ

法人化後の図書購入システムについて

平成16年4月1日の国立大学法人化に伴い、大学法人会計となったため、附属図書館でも研究費からの図書購入費の直接の引き取りや、図書購入依頼方法等が変更になりました。

研究用図書購入に関しては、昨年度までは図書費を学部から図書館へ移算して支払いをしていましたが、今年度からは、直接教員の経費から引き去ることになりました。

図書購入依頼は、「Webによる図書購入依頼システム」をお使いいただくと、迅速で正確な処理ができますので、ご利用をお願いします。



大学の「物品請求システム」へ入る画面に「Webによる図書購入依頼システム」の入口が用意してあり、ここから4種類の選書データベースを使って図書の購入依頼ができます。選書データベースへのログインは、図書館の他の電子図書館サービスも利用できる電子図書館IDとPasswordが必要です。ユーザー認証後、アクセスできる画面を用意しています。

(左画面)

各データベースの使い方は、それぞれのデータベースの ID, Password 入力欄右に、マニュアルへのリンクを用意しています。

この画面で図書等の執行状況が確認できます。ただし、現状では「物品請求システム」での予算残高への反映までにタイムラグがありますのでご注意ください。

(図書情報係)

図書の寄贈について

この度「島根大学学生生活推進会(学推会)」より、附属図書館へ学生用図書を101冊寄贈していただきました。「学推会」会則の業務の中の「学生の研究活動の促進に関すること」によるもので、全学生が活用できるように、幅広い分野からの選書となっています。

9月30日の附属図書館運営委員会の開催前に、附属図書館長から学推会へ感謝状の贈呈があり、学推会を代表して2名の学生に手渡されました。



学推会からは今後、毎年図書を寄贈していただくことになりました。深く感謝の意を表すとともに、全学生の教育・研究に活用していただきたいと思います。

寄贈された図書は整理が済み次第、閲覧室の新作図書展示書架に暫らくの間展示し、その後、各分類ごとの書架に配架します。

(図書情報係)

第13回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会総会が開催されました

島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会（略称：医図懇）は、島根県下の病院図書室、看護教育機関、医師会等が連携協力して、島根県の医学・医療の発展に寄与することを目的に、1990年に発足しました。現在、病院図書室を中心に21機関が加盟しています。



第13回を迎えた本年総会は、9月6日午後、幹事館である本学附属図書館医学分館で開催されました。県教育庁梶谷光弘氏の「大森文庫の内容とその価値について」と題する講演では、医学分館大森文庫について、母里藩医も勤めた大森家の華岡青洲関連古医書の紹介がありました。

また、3機関からの事例報告と協議では、近年、国内の病院で設置が続く患者図書室が、県下の病院でも構想されていること、半数以上の病院図書室で、日本語医学文献データベースである“医中誌Web”を導入していることなどが明らかになりました。医図懇の役割の重要性を

再認識すると共に、研修会の企画などが話し合われ、実り多い会となりました。

（医学情報サービス係）

図書館の情報リテラシー講習会

図書館で提供しているサービスや、データベース等の検索方法を知っていただくために、毎年オリエンテーションや各種講習会を開いています。

特に出雲キャンパスでは、大学統合により利用できるデータベースが大幅に増えました。今後も、パンフレット作成や電子ジャーナル講習会などで、いっそうの利用促進を図ってゆく予定です。

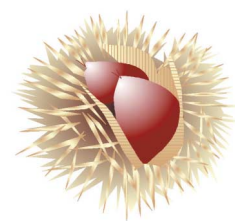
（利用サービス係／医学情報サービス係）

平成16年度開催講習会（9月現在）

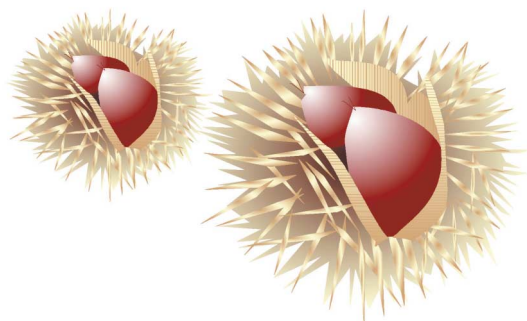
本 館				
講 習 会 名	開催月	対 象 者	人数	内 容
オリエンテーション	4 月	新入学部生	1,270	図書館利用案内
授業への参画	4 ～ 5 月	法経学科 1 年	92	HP利用指導, OPAC 図書館ツアー 情報検索 等
		農業生産学科 2 年	34	
		電子制御システム工学科 1 年	79	
OPAC説明会	6 月	全般	16	HP利用指導, OPAC 図書館ツアー
情報検索講習会	5 ～ 6 月	全般	18	情報検索

医 学 分 館

講 習 会 名	開催月	対 象 者	人数	内 容
オリエンテーション	4 月	新入学部生・院生	201	サービス概要 閉館時特別利用制度
医学分館ツアー	4 月	新入学部生・院生	9	館内案内
OPAC説明会	4～5 月	全般	3	OPAC
文献検索講習会	5～6 月 10～12月	医学科 5 年 看護学科 3 年 看護部・講座	99	医中誌 Web PubMed, OPAC 文献オーダー
授業への参画	5～7 月	看護学科 2 年・3 年 院生 医学科 1 年	140	医中誌 Web CINAHL, PubMed 文献オーダー インターネット
地域連携文献検索 講習会	4～6 月 8 月	島根県看護協会 日本精神科看護技術協会 県下病院看護師	140	医中誌 Web 雑誌記事索引 OPAC



[表紙写真 落合輝満]



島根大学附属図書館報「淞雲」 第3号
平成16年10月発行

発行 島根大学附属図書館報編集委員会

本 館 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852)32-6083 FAX 32-6089
医学分館 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853)20-2092 FAX 20-2095